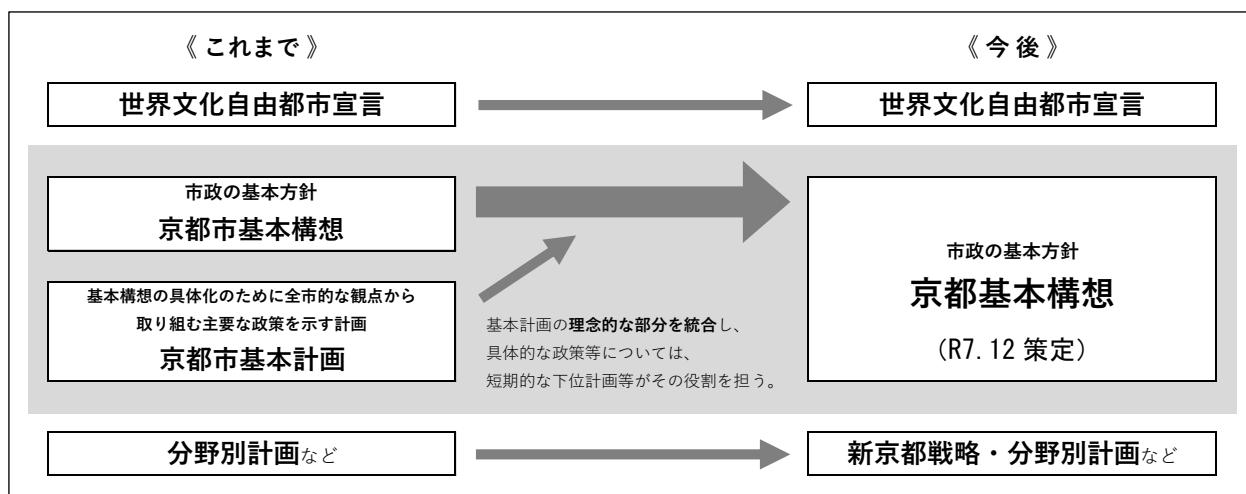


## 京都基本構想・新京都戦略を踏まえた今後の大学政策について

### 1 京都基本構想《別紙1参照》

#### (1) 概要

- 市政の基本方針を示す「京都市基本構想（期間：25年（2001年～2025年））」と基本構想を具体化するため、本市の主要な政策を示す「京都市基本計画」を総合し、「京都基本構想（期間：25年（2026年～2050年））」を策定（令和7年12月）
- 今後、具体的な政策等については、下位計画（分野別計画等）がその役割を担うことになる。  
⇒ 大学政策については、分野別計画である「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」がその役割を担うことになる。



#### 《体系》

章	概 略
序文	
第一章 京都基本構想の背景	時勢が複雑化の一途を辿る今日において、「世界文化自由都市宣言」が掲げる「都市の理想」にいま一度立ち返り、京都市とわたしたち京都市民の今後四半世紀の在り方を展望するものとして、この基本構想を策定することを示す。
第二章 京都のかたち	序文で示す京都独自の価値・思想が生まれた背景、歴史的経過を示したうえで、その価値・思想がいまを生きるわたしたち京都市民の生活の中に受け継がれていることを示す。
第三章 世界・日本・京都市の いまと未来への課題	世界、日本そして京都市が直面している、またこれから表面化しうる課題や危機等を示す。
第四章 わたしたち京都市民 がめざすまち	序文及び第二章で示した京都の「まち柄」の基礎となっている3つの価値・思想に紐づく形で、9つのめざすまちのすがたを描いている。
第五章 わたしたち京都市民	第四章で提示するめざすまちのすがたを実現していくために、市民と

のこれから	行政が進むべき方向性を描いている。この基本構想を“拠り所”として、今後の京都市やわたしたち京都市民の在り方を考えていただきたいという思いを込めて、最後は「未来への問いかけ」という形で締めくくっている。
-------	--

## (2) 大学政策に関する主な内容

頁	章・節	記載内容(抜粋)
6	第二章 京都のかたち 第三節 節度と矜持に基づくひらかれたまち柄	(前略) 現代においても、数多くの大学や研究機関が集積する世界有数の学術都市であり、(後略)
7	第四節 世界から敬愛される学藝の府	大学のまち・学生のまちと称され、(中略) 学術と文化・藝術の双方において世界有数の都市、いわば学藝の府である。
8	第三章 世界・日本・京都市のいまと未来への課題 第一節 人口動態の変化とその影響	京都市の人口は(中略) 特に就職や結婚・育児などのライフステージの変化に伴う若年層の流出が顕著となっている。(中略) 国内有数の大学街である京都市においては、学生数減少の多大な影響も予見されるところであり、まち全体としてのあり方も大きな変容を迫られていくだろう。
8	第二節 日本経済の動向と京都市の産業	(前略) 労働者・後継者の不足が課題となっている。(中略) 地域に根差しながら未来を担っていく人材を確保・育成していく必要性が年々増している。
12	第四章 わたしたち京都市民がめざすまち 第一節 歴史と文化を介して人間性を恢復できるまち (1)本物(ほんまもん)を追求・創造し続ける	(前略) このまちの学藝をさまざまに担う京都学藝衆と学域・地域のつながりを深めることで(中略) 教育の機会を創出するとともに、(中略) 学域・地域を持続させていくための土壌としていく。
12	(2)世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける	わたしたち京都市民は、ひらかれたまち柄のもとで世界と文化交流を重ねながら、(中略) また、世界中の国や地域から突き抜けた人材を集めるために、工夫と努力を重ねていく。
13	(3)「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる	(前略) 市外ひいては国外からも人が集い、夢中が溢れるまちをつくっていく。特に、わたしたちの京都市の未来を担う子どもや若者が、(中略) 学問から藝術、(中略) さまざまな物事を個性に応じて追及できるまちであり続ける。加えて、大学や博物館、(中略) までもが広く集積することを活かして、まち全体をキャンパスと捉えてこれらを有機的につなぎ

		合わせながら、年齢、性別、国籍、文化圏などを超えてともに学び合える、夢中と感動に溢れた人生とまちを織り成していく。
15	第三節 自他の生とともに肯定し尊重し合えるまち (1)多層的でゆるやかなつながりが続く	加えて、市外から通勤・通学する人々から観光客に至るまで、京都市とさまざまな関わり方をしている人たちもまた、わたしたちの京都市の現在を担ってくれていることに感謝と敬意を抱きながら、(後略)誰もが安心と愛着とを抱ける心地よいまちをつくりていく。
17	第五章 わたしたち京都市民のこれから	このまちは、市内に住居する京都市民によってのみつくられてきたわけではない。わたしたちの京都市においては、働き、学び、憩うために市外から日々足を運ぶ人々、進学・就職・育児等による転居後も京都市に深い愛着を抱いている人々（中略）これらの人々が銘々において自在に京都市にかかわることができるために設計や、多層的で多彩な帰属意識の醸成と可視化を可能とする取組が求められる。わたしたちの京都市と何らかのかかわりを持った人々が物理的・時間的な隔たりを超えて関わり続けていける仕組みをデジタル技術も活用しながら構築していくとともに、これらの人々との対話を新たに織り成し、深めていく必要がある。

## 2 新京都戦略《別紙2参照》

### （1）概要

- 令和6年度から令和9年度までに取り組む京都市の政策を取りまとめた中期計画として策定（令和7年3月）。市長公約を盛り込んだ内容となっている。
- 目指すまちの姿を「すべての人に『居場所』と『出番』がある『突き抜ける世界都市 京都』」とし、この実現に向けた先導的な取組をリーディングプロジェクトとして位置付けている。

### （2）大学政策に関連する主な内容

#### リーディングプロジェクト 1 ひらく (P.13)

- ①世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト  
大学のまち・世界に開いたまち京都の特性を活かし、サバティカル休暇を取得する海外の研究者や留学生等が、京都に来て、地域に調和しながら安心して快適に暮らし、活躍できる環境を整えるため、相談窓口を設置するとともに、日本語や日本文化を学べる拠点を充実。

## リーディングプロジェクト 2 きわめる (P. 19)

- 学問、学びだけでなく、芸術・技芸があふれる唯一のまちを目指し、歴史、文化、大学の知が集積する 京都のまちの強みを活かし、京都ならではの市立・府立高校の連携、高大連携等により、探究型学習、 STEAM 教育、演劇教育を実践、さらには起業家精神を醸成。次代を担う子どもたちの「生きる力」と「創造的な発想力」を養い、グローバルに活躍できる人材を育成。突き抜けた人材が学校教育で幅広く活躍 できる場を提供。
- 大学・学生が京都のまち全体をキャンパスに学びを深め、その力を地域活性化や社会課題解決に。学生の出会いと交流を通じた京都への愛着の醸成、市内就職・定住の促進、京都との関係の構築により、将来的な京都への定着を促進。

(政策集 P. 7)

### 3 京都の伝統・知恵・イノベーションの力により「都市の活力と成長を支える産業が育つまち」

#### (5) 大学のまち・京都の強みを活かした都市の活力の創出

- ① 相談窓口の設置【R 7】や日本語・日本文化を学ぶことができる拠点の充実【R 8・R 9】など、海外の研究者や留学生等が、京都に来て、安心・快適に暮らし、活動できる環境づくり
- ② まち全体をキャンパスに大学・学生と地域、学校、企業等が連携した地域活性化や社会課題解決に向けた取組の推進
- ③ 多様な主体と連携した学生への支援などによる、学生の京都への愛着醸成と市内定住の促進